

第 24 回 日本組織適合性学会大会の御案内

第 24 回日本組織適合性学会大会

大会長 湯沢賢治

(国立病院機構水戸医療センター 臨床研究部長 臓器移植外科)

1973 年に開催された第 1 回日本組織適合性研究会から数えて 43 年目になります歴史と伝統のある日本組織適合性学会の第 24 回大会を担当させて頂くこととなりました。外科医になって 3 年目の 1984 年に臓器移植の道を志し、一貫して臓器移植を専門としてきた外科医です。30 年前には、現在のように有効な免疫抑制剤がなく、移植成績向上のためには、組織適合性を合わせることも出来ず、学会（当時は研究会）には多くの移植医が参加していたものです。その後、免疫抑制剤の格段の進歩により、移植成績が向上し、臓器移植における組織適合性の意義が薄れてしまった感があり、本学会から多くの移植医が去りました。しかし、現在、臓器移植の臨床の現場では、高感度クロスマッチ検査の導入、抗体陽性症例に対する処置、抗体検査の意義が明らかになり、正に移植臨床の現場への本学会の回帰が求められています。

第 24 回大会は「移植医療の壁 ー 個体の多様性を解き明かす ー」をテーマとして、組織適合性の原点とも言える臓器移植の臨床での組織適合性の関わりを取り上げ、さらに基礎研究から臨床までの多様なテーマで最新の成果を取り上げたいと考えています。会場は日本三大名園である「偕楽園」に近いホテルにしました。多数のご参加をお待ちいたしております。

会 期：平成 27 年 9 月 10 日（木）～ 12 日（土）

会 場：ホテルレイクビュー水戸

〒 310-0015 茨城県水戸市宮町 1-6-1 TEL: 029-224-2727

演題応募：平成 27 年 4 月 1 日～ 5 月 31 日

大会内容

特別講演 2 題、シンポジウム 2 セッション、一般演題、学会賞受賞講演、
学術奨励賞候補者発表、QCWS 集会、教育講演（認定 HLA 技術者講習会）、
初心者講習会、ランチョンセミナー、その他

演題募集

種別：シンポジウム 1（公募、一部指定）「移植医療における抗体 ー 現状と課題 ー」

シンポジウム 2（公募、一部指定）「MHC 研究の新たな展開」

一般演題（口演およびポスター）

学術奨励賞

演題募集期間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～ 5 月 31 日（日）

演題登録方法：大会 HP よりオンライン演題応募のみとさせていただきます。

詳細は以下大会 HP をご覧ください。 <http://itpc.co.jp/jshi24/>

大会事務局

本大会に関するお問い合わせは、下記の大会事務局にお願いいたします。

国立病院機構水戸医療センター 臨床研究部移植医療研究室

〒311-3193 茨城県東茨城郡茨城町桜の郷 280

第24回日本組織適合性学会大会事務局

E-mail: ishoku@mn.hosp.go.jp

大会ホームページ

<http://www.itpc.co.jp/jshi24>

※参加登録、宿泊予約、プログラムの詳細などについては、大会ホームページで、順次お知らせします。

2015 年度学会賞ならびに学術奨励賞の募集について

会員の皆様

日本組織適合性学会においては、昨年度より、高い権威をもつ「学会賞」と若手学会員の学術研究を奨励する「学術奨励賞」を設けています。

この学会賞は組織適合性分野において顕著な業績をあげられた学会員を表彰するものです。学会を代表する学会員を選ぶ慎重を要する作業であり、推薦された候補者について、公平かつ十分な審議をへて、受賞者を決定すべきものです。そこで昨年度、学術奨励賞も含めて、各賞候補の資格や選考の手続きなどを明確にした、規定を作成いたしました。本規定において、学会賞は組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した者を表彰し、もってその栄誉をたたえることを目的とし、一方学術奨励賞は組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野における秀でた学術的研究を若い学会員に奨励するために優れた若手研究者を表彰し、もって組織適合性分野の発展に寄与することを目的としています。

本規定に則り、2015 年度日本組織適合性学会の学会賞並びに学術奨励賞を以下の要領で募集します。なお昨年度の規定から若干の変更がありますので、以下の要領にしたがい、ふるってご応募ください。

1. 助成内容

組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した学会員または名誉会員（年齢制限無し）に学会賞を授与します。また、2015 年度学術集会大会（第 24 回大会）に応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者（応募者、原則として 2015 年 4 月 1 日時点で満 45 才以下）に学術奨励賞を授与します。授与件数は学会賞 1 名（賞金 10 万円）、学術奨励賞若干名（賞金 5 万円、あるいはそれ以下）を予定しています。

2. 応募資格

(1) 学会賞

本学会の正会員として 5 年以上の会員歴があり、以下の条件を満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、組織適合性学会の発展に特筆すべき功績を残した実績を有すること。
- 2) 本学会の正会員または名誉会員であること
- 3) 正会員である場合は、当該年度の会費を納入済みであること。

(2) 学術奨励賞

本学会の正会員（当該年度大会までに正会員となる者を含む）であり、以下の条件をすべて満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野に関する学術研究において、その内容が優れていること。
- 2) 当該年度の会費を納入済みであること、または当該年度の大会までに正会員として会費を納入すること。
- 3) 学術奨励賞を受賞した者は、原則として次年度以降も正会員を継続すること。
- 4) 当該年度の大会に、筆頭演者として演題に応募すること。
- 5) 応募しようとする演題の内容において、応募者が中心的な役割を果たしたこと。
- 6) 応募しようとする演題の内容が、本学会に未発表であること。

- 7) 受賞後に MHC へ原著論文あるいは総説を執筆すること。
- 8) 過去 3 年間に学術奨励賞を受賞していないこと。
- 9) 学術奨励賞の応募者は当該年度の 4 月 1 日において、原則として 45 才以下であること。

3. 応募・推薦方法

(1) 学会賞

学会賞は自薦または他薦とし、前年度の 12 月末までに、候補者に関する以下の書類を日本組織適合性学会事務局 (e-mail: jshijimu@kumamoto-u.ac.jp) および学術奨励賞担当理事 徳永勝士 (e-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp) にメール添付で提出する。なお、他薦の場合には、推薦者は正会員であることが必要です。

1) 履歴書

書式は自由とし、A4 用紙にて 1 枚程度とする。連絡先住所、電話番号、FAX、e-mail アドレス、生年月日、年齢を記入する。

2) 業績概要

書式は自由とし、A4 版用紙にて 2～3 枚程度とする。

3) 論文業績リスト

書式は自由とし、代表的な論文 3 編について、各 1 部 (コピーも可) 添付する。

4) 応募動機 (他薦の場合は推薦書)

書式は自由とし、学会賞への応募理由 (他薦の場合は推薦理由) を A4 版用紙 1 枚に記載する。

(2) 学術奨励賞

学術奨励賞に応募しようとする会員は、演題申込み締切りまでに、以下の書類を日本組織適合性学会事務局 (e-mail: jshijimu@kumamoto-u.ac.jp) および学術奨励賞担当理事 徳永勝士 (e-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp) にメール添付で提出する。

1) 抄録

一般演題に応募した抄録

2) 応募ファイル

1 頁目に、演題名、演者 (全員)、所属 (全員)、および応募者 (筆頭演者) の連絡先住所、電話番号、FAX、e-mail アドレス、生年月日、年齢を記入する。2 頁目以降に、応募した (1) 研究の背景、(2) 研究の意義、(3) 日本組織適合性学会との関わり (これまでと今後の方針・希望など) を、項目ごとに 300-400 字程度でまとめる。

4. 選考および結果通知について

(1) 学会賞

評議員の中から評議員による選挙で選ばれた選考委員 7 名により構成される学会賞選考委員会が選考を行う。委員会は、応募・推薦のあった学会賞受賞候補者より、1 名を受賞候補者として選考した後に、これを理事会に推薦するものとする。なお、委員は密接な利害関係者の審査に加わらない。理事会は、学会賞選考委員会から推薦された受賞候補者 1 名について審議し、受賞者を決定した後に、評議員会の承認を経て総会に報告するものとする。

(2) 学術奨励賞

理事長、学術賞担当理事、学会賞選考委員、並びに学術賞担当理事が選考した若干名の評議員によって

構成される学術奨励賞選考委員会が選考を行う。委員会は、応募のあった奨励賞受賞候補者の中から、当該年大会中の各候補者の口頭発表内容の評価等を参考にして、奨励賞選考委員会にて若干名を受賞候補者として選考した後、これを理事長に推薦し、承認を得る。なお、委員は密接な利害関係者の審査に加わらない。当該年大会中に選考結果を公表し、表彰式を実施する。

5. 受賞者にかかる義務について

(1) 学会賞

学会賞受賞者は、原則として受賞年度に開催される大会期間中に、受賞講演を行う。

(2) 学術奨励賞

学術奨励賞受賞者は、助成が行われた研究課題についての報告書（様式は別途通知します）を学会宛に提出する。

6. 助成金の使途

使途について特に制限はないが、学会賞・学術奨励賞であることの趣旨をご理解の上、適切に使用しなければならない。なお、学術奨励賞受賞者については使途とその内訳を後述の報告書に記載する。

7. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは学会事務局（Tel: 096-373-5310, Fax: 096-373-5314, e-mail: jshijimu@kumamoto-u.ac.jp）または学術奨励賞担当理事 徳永勝士（e-mail: tokunaga@m.u-tokyo.ac.jp）にお願いします。

**組織適合性検査技術者認定制度
平成 27 年度 認定 HLA 検査技術者講習会のお知らせ**

組織適合性検査技術者認定制度委員会

委員長 田中 秀則

組織適合性検査技術者認定制度委員会教育部会

部会長 太田 正穂

日 時：平成 27 年 9 月 12 日（土曜日）時刻：8 時 30 分～10 時 30 分

会 場：第 24 回・日本組織適合性学会 大会会場

ホテルレイクビュー水戸 2 階（飛天鳳凰）

〒310-0015 茨城県水戸市宮町 1 丁目 6-1（TEL029-224-2727）

テキスト：テキストは講習会の約 1 ヶ月前に、学会ホームページ上に掲載しますので各自、御参照ください。
会場でのテキストの販売は、いたしません。

受講証明書：認定制度に関わる受講証明の受領を希望される方には、会場入口の受付にて、1 人につき 1 枚を発行いたします。

内 容：各講習とも質疑応答を含めて、35 分を予定しています。

(1) HLA に関する基礎医学的な講演

土屋 尚之 先生（筑波大学医学医療系分子遺伝疫学研究室・教授）

「リウマチ・膠原病と HLA」

(2) HLA タイピングあるいは抗 HLA 抗体検査に関する講演

椎名 隆 先生（東海大学医学部分子生命科学・准教授）

「次世代シーケンサーを用いた HLA 領域のゲノム解析と HLA タイピング」

(3) 臓器移植の臨床医学に関する講演

剣持 敬先生（藤田保健衛生大学医学部臓器移植科・教授）

「わが国の臓器移植・臓器移植の現状と将来展望」

この講習会は、今後 HLA 検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする者を対象に実施されますが、それ以外の大会参加者であっても自由に参加することができます。事前に受講希望届けを提出し、事前登録していただく必要はございません。

初心者講習会の開催及び参加希望者募集について

組織適合性学会教育委員会
委員長 太田正穂
組織適合性学会初心者教育部会
部会長 成瀬妙子

日本組織適合性学会では、学会大会プログラムにおいてQCワークショップや技術者講習会を開催し、学会員の組織適合性検査に関わる知識や技術の向上を目指しているところです。しかしながら、組織適合性検査の初心者や各検査法に関する基礎的な情報を要望する会員に十分な説明を行う時間を確保できない状況です。

そこで、今年度も下記の通り、HLA および HLA 検査に関する基礎的な内容の教育訓練を目的とした「初心者講習会」を大会期間中に開催することと致しました。

記

- 1, 対 象：学会員および大会参加者
(組織適合検査の初心者で、HLA の基礎的な内容の教育訓練を希望する方)
- 2, 日 時：日本組織適合性学会第 24 回大会期間中
- 3, 会 場：ホテルレイクビュー水戸
- 4, 定 員：20 名程度
(定員数を超える場合は、当委員会で選考を行う場合があります。)
- 5, 参加費：無料
- 6, その他：申し込みに関する詳細は 6 月中旬に日本組織適合性学会のホームページ (<http://jshi.umin.ac.jp/>) に掲載致します (応募締め切りは 7 月末を予定しています)。

以上

平成 26 年度 認定 HLA 検査技術者講習会アンケート集計結果

開催日時：平成 26 年 9 月 13 日（土）10:00～12:00

会 場：第 23 回・日本組織適合性学会大会会場

長崎大学医学部キャンパス（坂本キャンパス）

（長崎市坂本 1-12-4）

1) 旅費・滞在費の財源について 回答者 73 名

①	私費	10 名 (13.7%)
②	職場からの支援	61 名 (83.6%)
③	その他	2 名 (2.7%)

③その他の内訳：県からの受託費 1 名

2) 職場・職務について

職場 回答者 71 名

①	病院	42 名 (59.2%)	輸血部：15 名，検査部：17 名
②	血液センター	6 名 (8.4%)	
③	検査センター	7 名 (9.9%)	
④	大学(国公立, 私立)	8 名 (11.3%)	
⑤	民間企業	6 名 (8.4%)	
⑥	その他	2 名 (2.8%)	公的バンク：1 名，研究：1 名

職務 回答者 70 名

①	臨床医	2 名 (2.9%)	
②	臨床検査業務	47 名 (67.1%)	臓器：14 名，輸血：23 名，造血幹：12 名
③	検査受託業務	4 名 (5.7%)	
④	製造業関連業務	3 名 (4.3%)	
⑤	製品開発業務	2 名 (2.9%)	
⑥	教育業務	1 名 (1.4%)	
⑦	研究業務	10 名 (14.3%)	
⑧	その他	1 名 (1.4%)	

3) 参加者の認定制度への関わりについて

認定資格の取得状況および取得への希望 回答者 69 名

①資格取得済み 34 名 (49.3%)

②資格取得希望 30 名 (43.5%)

③資格取得希望しない 5 名 (7.2%)

取得希望者の内訳 回答者 29 名

- ② - I : 認定技術者 19 名 (65.5%)
- ② - II : 認定指導者 4 名 (13.8%)
- ② - III : 未定 6 名 (20.7%)

- 4) 学会ホームページに掲載された、講習会テキストの事前確認の有無 回答者 70 名
あり 60 名 (85.7%) なし 10 名 (14.3%)

[意見]

場所が解らなかった。

テキストが開けなかった。

- 5) 講習科目の種類は適切であったか? (数値は 5 点満点の平均点)

回答者 63 名 平均 4.7 点

- 評価の基準 : 5 : すべての科目において適切であった。
4 : 一部の科目に問題があったが、ほぼ適切であった。
3 : 約半数の科目は適切であった。
2 : 多くの科目について不適切であった。
1 : すべての科目について不適切であった。

- 6) 講習内容のレベルならびに講習テキストは適切であったか? (数値は 5 点満点の平均点)

	講演評価	テキスト評価
平均点	4.1	4.0

- 評価の基準 : 5 : すべて理解できた。
4 : 一部は難解であったがほぼ理解できた。
3 : 約半分は理解できた。
2 : 多くの内容について難解であった。
1 : すべての内容が難解であった。

- 7) 講習時間は量的に適切であったか? (数値は 5 点満点の平均点)

評価平均点	その他 要望
4.5	海外の情報をもっと多くして欲しい。 時間的に詰め込み過ぎず、ゆとりが欲しい。 もっと詳細な話を聞きたい。 解り易かった。

- 評価の基準：5：適切であった。
 4：ほぼ適切であった。
 3：もっと長時間の講習を受けたかった。
 2：講習時間はもう少し短くてもよかった。
 1：その他

8) 講習会の開催通知は適切であったか？（数値は 5 点満点の平均点）

平均点 4.9

- 評価の基準：5：適切であった。
 4：あやうく見落とすところであった。
 3：他の人から情報を得るまで気が付かなかった。
 2：その他

情報の入手経路	回答数
ホームページ	11 名
メール	2 名

9) その他の意見

- 講習テキストの入手がわかりにくかった。HP からのダウンロードのリンク先の明記をお願いしたい。
- テキストの掲載をわかりやすくしてほしい。
- 学会の初日、朝だと、前日のうちの開催地へ入らねばならず、前日仕事だときびしい場合も、学会中日を希望します。
- いつも開催時期がわかりづらい。
- 仕事上、休日に開催して頂きたい。
- 抄録集の事前配布をしてほしい。
- 抄録は郵送して欲しい。
- 連続性のある講習会も必要かと思う。
- 大学までのアクセスがわかりづらく大変だった。

組織適合性技術者認定制度委員会・部会名簿（2015）

組織適合性技術者認定制度委員会

委員長：田中 秀則

副委員長：中島 文明

委員：石川 善英、太田 正穂、木村 彰方、高 陽淑、酒巻 建夫、徳永 勝士、成瀬 妙子、
西村 泰治

資格審査部会

部長：成瀬 妙子

副部長：

部員：安藤 麻子、中島 文明、清水まり恵

教育部会

部長：太田 正穂

副部長：笠原 正典

部員：一戸 辰夫、土屋 尚之、木村 彰方、高 陽淑、津田 とみ、徳永 勝士、中島 文明、
成瀬 妙子、西村 泰治、平山 謙二、湯沢 賢治

試験問題検討部会

部長：木村 彰方

副部長：平山 謙二

部員：石川 善英、一戸 辰夫、太田 正穂、田中 秀則、徳永 勝士、成瀬 妙子、西村 泰治、
湯沢 賢治

QCワークショップ部会

部長：田中 秀則

副部長：成瀬 妙子、中島 文明、高 陽淑、橋口 裕樹

部員：石塚 敏、一戸 辰夫、太田 正穂、川井信太郎、吉川 枝里、木村 彰方、黒田ゆかり、
小林 孝彰、藤原 孝記、宮崎 孔、湯沢 賢治

参考マニュアル作成WG（新設）

HLA タイピング WG：成瀬 妙子（リーダー）、黒田ゆかり、吉川 枝里、小川 公明

抗HLA抗体WG：高 陽淑（リーダー）、川井信太郎、藤原 孝記、新地 隆文

クロスマッチWG：橋口 裕樹（リーダー）、石塚 敏、黒木 聖久、高山 智美、藤井 明美、
金本 人美